

がとうございました。渡辺先生をはじめ、お世話下さいました役員の方々へ感謝します。 合掌



大分県歴史博物館にて

## 市外見学会に参加して

池 辺 伊久夫

十一月七日（日）、見学コース、朝八時別府発、大分県立歴史博物館～宇佐神宮玉物館～宇佐八幡宮参拝～曹洞宗大善寺～真言宗大楽寺～豊後高田市～昭和の町～県指定文化財・

青宇田画像石～天台宗長安寺、午後四時半帰着。

当日は秋晴れの好天に恵まれ、また六八名もの多数の方々の参加をみて、大変有意義な見学会であったと思います。

見学コースの案内・指導を戴きました県立歴史博物館副館長・渡辺文雄先生の各訪問先での懇切ていねいなご説明が、参加者にとって、何ものにも代えがたい大きな宝であったと感じました。感謝の気持ちでいっぱいです。

県立歴史博物館では丁度、特別展「南無阿弥陀仏―浄土への道」が開催中であり、京都の本願寺と県内各地の関連寺院の宝物を合わせ見学することが出来ました。

見学先各所につきましても、平素近くを訪ねることがありましても立ち寄ることはなく、改めて新たな知識をいただきました。

見学会に参加された方の中には、熱心にメモをとられて見学されている方もあり、また初めての参加と思われる方々も、隣り合わせの会員などと気軽に話し合われ、それぞれが友好を深め、楽しく散策されておられたようにお見受けしました。今後の見学会につきましても、会員の方をはじめ、新たな方々が一人でも多く参加下さるよう、平素から交友関係の輪を広げていきたいと念じております。

終わりにりましたが、見学会の都度配布される案内冊子の作成に当られている執行部のご努力に感謝いたしますと共に、何名かの方々からも、「頂いた素晴らしい案内冊子を、貴重な案内書として大切に保存し、活用させて頂いている」との謝意を込めたお話しをお聞きました。今後とも宜しくお願い致します。

### 「南無阿弥陀仏」特別展を見学して

細谷 毅

さわやかな秋びよりの一日、史談会主催の研修見学会に参加した。盛沢山の見学地であったので、紙数の関係から表題の特別展についてののみ、その思いを記します。

バスから降りて、熱い思いを胸に県立歴史博物館に入った。指導解説をいただいたのは、副館長の渡辺文雄先生である。的確で要点を押さえた説明はわかり易く、さすが第一人者だとの感を強くした。

仏教というと何か難しく、別世界のことのように思われがちであるが、せんじ詰めれば「幸せの追求、人生いかに生きべきか」という人間存在の根幹に関わる命題に答えるものである。

南無阿弥陀仏の六字名号を称えて仏・法・僧の三宝を信じ、て帰依する。これは死後の安穩な極楽浄土への往生を希求し、一向に來迎を予期する衆生の没我の様相であろうか。

主な展示物を概観すると、中央の出品の当麻曼陀羅、親鸞聖人像―大分からは親鸞聖人画伝、六字名号幡等―が並べられていたが、いずれも初めて目にする貴重な遺産であった。

この展示を通しては、本願寺等の阿弥陀信仰に関わる遺産と、県下に残された広範な遺産が示す信仰との間にどのようなつながりがあるのか、さらには豊前・豊後において浄土信仰はどのように広がっていったのか、庶民の信仰の状況はどうであったのか等、模索してみたい疑問点が次々に生じた。会場に置かれていた解説シートを読んでも判然としない。今後指導を仰ぎたい項目である。

いずれにしても阿弥陀信仰の数々の遺産の印象は鮮烈で、年をとったせいにか仏を近く感じた次第である。兎に角、今日は充実感が膨らみ、稔りの気持ちを抱くことのできた一日であった。指導お世話いただいた渡辺先生、史談会役員の方々、に満腔の意を表して拙文を終えたい。